

「使徒の派遣とその報告」

主イエスはガリラヤ湖を舟で巡り、ご自分が神の御子であることを弟子たちに体験的に教えられ、続いてナザレへ向かわれた。神であるが、人となられた主イエスは、郷里ナザレの人々を信仰に導こうと、受け入れられないことを知りながら2度目の訪問をされたのである。しかし嵐を静め、悪霊を追い出し、死人さえ蘇らせる主イエスも、人の不信仰な心だけは変える事はできなかった。人々の頑なな、冷たい目の奥に、主イエスはやがて来る十字架と復活を見ておられたのかもしれない。この直後、主イエスは弟子たちを伝道に遣わされたのである。

弟子たちは主イエスと寝食を共にし、主イエスの素晴らしい奇跡の業を目撃してきた。しかしそれは主イエスの御力であって、自分たちにそれができるなど、思っていなかったようである。ところが主イエスは、弟子たちに権威を与え、遣わされた。それは現在に至るまで、主の弟子たちに継続して与えられている。「羊を狼の中に入れるがごとし！」と言われたが結果は、かえって、狼を征服することになった。遣わして下さった全能の主の恵みである。

[聖書の学び]

I、十二弟子の派遣 (マタイ 10：1、5～11：1)

1、主イエスは派遣するとき、権威を与えられた。 (10：1)

※汚れた霊どもを制する権威

- ・悪霊を追い出す
- ・病気・わずらいを癒す

2、旅に出る時の細かい注意。 (v5～11)

①旅先で成すこと

- ・異邦人の所ではなく、イスラエル人のところに (v5～6)
- ・救い主が来られたので、再臨が近い (v7)
- ・主の権威による奇跡 (v8)

②必要を与えられる主に期待する

- ・持ち物 (v9～10)
- ・助ける人が与えられる (v11～13)

3、福音を受け入れられないとき (v14~28)

①家や町を出るときチリを払う。(v14、15) ——さばきの日がある。

- ・狼の中に羊を送り出すようなものである。
- ・蛇のように賢く、鳩のように素直に！

②迫害されるのは、証しのためである (v18)

- ・話すことば・・・信者の内におられる御霊が話させて下さる。(v19、20)
- ・迫害に遭ったら逃げる事。(v23)
- ・魂も体も滅ぼす方を恐れよ！（人間は体を殺せるが、魂は殺せない）

4、全能の神の守りと大きな報い (v110 : 28~42)

①天の父なる神が守って下さる。(v29~31)

- ・スズメさえ神は覚えられる、まして主イエスの弟子は神に覚えられる。
- ・父なる神は主イエスを証しする者を認めておられる。(v32~33)

②自分の十字架を負って主イエスに従う。(v38~39)

- ・家族の中で主を証しする。

③主の弟子を受け入れる者に、主の弟子と同じ報いがある。(v41、42)

Ⅱ、弟子たちの報告

1、弟子たちの宣教 (マルコ 6:12、13、ルカ 10 : 20)

①主イエスの言われたとおりの御業^{みわざ}が成された

(マルコ:12、13、ルカ 10 : 18)

②最も素晴らしいのは天に名が記されていること。(ルカ 10 : 20)

主イエスが弟子たち遣わされたことは、1度ではなく、何度かあったようである。

* **ディスカッション** (心を開いて互いに話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。